
笑っていたい

ショウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑つ
て
い
た
い

【NZコード】

N77130

【作者名】

ショウ

【あらすじ】

何が正しくて何が間違っているかなんてわからないし、何をした
らしいかなんともっとわからない。

だから今は自分の思ったことをやってみた。でもたぶん周りの大人
たちは反対するだろうな・・・

でも・・・あの子のために何かをやってみたい

中二病？オタク？

人はなにかの上に立たないと生きていけない。俺はそう思つている。

たとえば、生まれつき体が弱い人がいる。周りの人はその人を見て「かわいそう」と思うだろう。だがそう思う大抵の人はその体の弱い人を下に見てている。「自分はこの人より上だ」そう思ったときに初めて「かわいそう」という言葉が出てくるだろう。

だが俺はその考えを誰にも言わない。なぜだがわからないがほとんどの人が無自覚だからだ。だから俺がこの話をすると「そんなことはない」と返される。人によつては説教してくる奴もいる。だから俺はこの考えをほかの人へ言つことをやめた。

俺自身まだ高校生だからこの考えは中二病かなんかのあれかとも思つたことがあるが、周りの汚い大人たちを見ると自分の考えが間違つてゐるとはとても思えない・・・いや、こういつことを考える時点中二病なのかもしれないな・・・

「ハア・・・つまんね」

そんな考え方を持つてゐる俺は今現在入院中。そしてお見舞いに来る人たち。俺はイライラしている。「はやく元気になつてね」なんて言われた時にはぶち切れるところだつた。そんなに俺を下に見て楽しいか？見舞いに来た中で俺の事を本氣で心配してた奴なんてどのくらいいるか・・・まあそんなに見舞いに来る人なんていないのが現実ではあるんだがな・・・と思いながら病院の中を散歩していると

「れ～んぐ―――ん！」

突然大声で名前を呼ばれて俺はかなりビックリした。ちなみに俺の名前は高橋廉。高校一年生でもう少し一年に進級するぜ……なんて頭の中で考えるなんてやっぱり俺は中二病を卒業できていな痛い奴なのか？

「ん？廉くん何してる？」

「あ・・いや、何でもない」

そしてさつき大声で俺を名前を呼んだのは今俺の目の前にいる少女佐藤きりの。

「お前は元気だな、本当に入院患者か？」

俺の間にきりのは、「それほどでも～」といつて照れた。ほめたつもりはないのだが……

「それより廉くん、この本読み終わったから貸してあげる。」

入院生活とは暇なものだ。最初は俺も学校が休めると喜んでいたが三日もたつと飽きてしまい、暇潰しの何かをさがす日々となってしまった。かと言つて運動できる体でもないしが、ゲームは親に持つてきてもうえずでなにもすることがなかつた。しかしそんなときに現れたのが俺の幼馴染である佐藤きりのだ。俺が入院した五日後にこの病院に入院してきた。

そして何もすることのない俺に小説を進めてきた。ふだん本を読むといったマンガぐらいしかない俺がよくわからない小説を読むこ

とになつた。暇だからためにに読んでみるとそれが面白くて読むのをやめることができず、その日から一週間がたち今ではすっかりはまつてしまつた。

「はい、ハルヒの続編だよ」

「マジか？ 続き気になつてたんだよーありがとな

俺はこの時知らなかつた。この本がラノベだということが。この本が周りからどう思われているかが。

「ねえ廉くん？」

「なんだ？」

急いで自分の病室に戻り本を読もうと思つていたとききりのが話しかけてきた。きりのの顔を見ると少し悲しそうな顔をしていた。

「手術・・・明日なんだよね？ 怖くない？」

「別に死ぬような難しい手術じゃないんだからな、そんなに怖くないよ」

俺の体は血の流れが悪いらしくてよく貧血になつていたんだが最近それが悪化してしまい貧血レベルではすまなくなつてしまいそれをよくするために手術をする。別に手術そのものはそんなに難しいものではないのだがが入院期間がちょっとだけ長い。

「怖くないの？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7713o/>

笑っていたい

2010年11月7日21時47分発行